



手足のふるえなどを感じていませんか？



パーキンソン病チェックリスト

パーキンソン病は、40歳以降に発症することが多く、手足のふるえ・筋の固さ・動作の遅さ・転びやすさなどの症状がみられる病気です。
パーキンソン病はめずらしい病気ではなく、治療やリハビリで改善することが可能です。
早期発見のために、下記のチェックリストを利用して、かかりつけの先生に相談してください。



こんな症状はありませんか？

チェックが入ればかかりつけ医に相談しましょう！

40歳代以下、50歳代、60歳代、70歳代、80歳代以上) (男・女) 記入日 年 月 日

1	手や足のふるえがみられる。	はい	いいえ
2	動作が遅くなる。	はい	いいえ
3	字を書くとだんだん小さくなる。	はい	いいえ
4	姿勢が悪く小刻みな歩行になる。	はい	いいえ
5	歩き出すと止まらないことがある	はい	いいえ
6	バランスがとりづらく、こけやすい。	はい	いいえ
7	声が小さく聞き返される。	はい	いいえ
8	よだれがよく出る。	はい	いいえ
9	最近笑わなくなったと言われる。(無表情)	はい	いいえ
10	味や臭いについての感覚が鈍くなっている。以前と違う感覚である。	はい	いいえ

結果のみかたについて

上記のチェック項目のいずれかで
「はい」と答えた人



パーキンソン病の可能性があるので、かかりつけ医の先生に
このチェックリストをもって相談してください。



～大阪府三島圏域難病医療ネットワーク会議～

高槻市医師会・茨木市医師会・摂津市医師会

高槻市薬剤師会・茨木市薬剤師会・摂津市薬剤師会

大阪府訪問看護ステーション協会

大阪府介護支援専門員協会(高槻・島本支部)

大阪府茨木保健所・高槻市保健所

大阪医科大学附属病院

～大阪府三島圏域難病医療ネットワーク会議～

パーキンソン病とは

パーキンソン病は主に 40 歳から 50 歳以降に発症し、ゆっくりと進行する原因不明の神経変性疾患です。適切な治療とリハビリテーションを行えば、健康な方と変わらない生活を送ることができます。

パーキンソン病の日本での有病率は、人口 1,000 人当たり約一人と言われており、日本全体で 10 万人以上の患者さんがいると推定され、高齢化社会を迎えるにあたって、今後ますます患者数は増えると予想されています。パーキンソン病は 50 歳、60 歳代で発病することが多いのですが、70 歳代以上の高齢で発病する方も稀ではありません。また、時には 40 歳前に発病する方もいます。

パーキンソン病は神経伝達物質の一つであるドーパミンが減少する事で起こると考えられています。その結果、手足がふるえる(振戦)、筋肉がこわばる(筋固縮)、動きづらくなる(無動)、バランスが保てなくなる(姿勢反応障害)などの症状が現れます。

パーキンソン病の治療は、原因である不足したドーパミンを補う事で症状を緩和する薬物治療が最も重要です。飲み薬として直接補充する事ができるようになっています。また、神経細胞の連絡の仕組みの中でドーパミンの作用が解明されてきた結果、ドーパミンの働きを補助する点が解ってきて、この働きを補助する点に作用する複数の薬が使用できるようになっています。効果の異なる薬を組み合わせるより効果的な治療を行うなど、きめ細かい対応が行われています。ただ、どの薬を選ぶのか、どのくらいの量の薬を服用するのか、については、それぞれの患者さんの症状、年齢などを考慮して判断しており、病状に合わせた適切な治療を行うためには、定期的な診察が必要です。ご自分の判断で服用を止めたり、服用量を減らしたりせずに指示通りに服用して下さい。また、ご自分の生活リズムに合わせた服用の工夫も大切です。

パーキンソン病では、様々な運動療法がリハビリテーションとして行われており、病状の安定や緩和、日常生活の向上において大切な治療と位置づけられています。ストレッチ運動などは、毎日の習慣として取り組んでいる方も多く、病状に合わせたより専門的なトレーニングと合わせて、症状の軽減や苦痛の緩和に有益な治療となっています。

パーキンソン病に対する新たな薬が多く発売されると共に、治療指針を含めたパーキンソン病治療ガイドラインが作成されました。その中に、パーキンソン病は早期に発見し、早期に適切な治療やリハビリテーションを行う事が勧められています。本人、ご家族の方でお気づきの点があれば、かかりつけ医に相談され、専門医を受診して下さい。

